はちのへ文化のまちづくりアドバイザリーボード会議 報告事項1
令　和　５　年　１０　月　２０　日
文　化　創　造　推　進　課

「はちのへアート広場」第２回ひろば交流会 開催報告

１．　開催概要

文化芸術を取り巻く環境変化や、市内外の先進的・特徴的な取組事例などを学びあうことを通して、既存の取組のブラッシュアップや新たな取組について参加者が自ら考える機会とし、参加者相互の交流やネットワーキングから複数のスモールスタート事業を生み出し、持続可能で幅広い活動につなげていくことを目的として、八戸版プラットフォーム「はちのへアート広場」のセミナー型「ひろば交流会」の２回目を開催した。

２．　テーマ「学校教育における文化芸術の鑑賞や活動の充実について考える」

文化芸術基本法の基本理念では、子どもに対する文化芸術に関する教育の重要性に鑑み、学校、文化芸術活動団体等との連携が図られるよう配慮しなければならないとされたところですが、学校教育における文化芸術活動の充実において、何が目指され、どのような活動が求められるのかなど、今後、学校教育における文化芸術の鑑賞や活動の充実に繋がる新しい取組の契機となるよう、今回のテーマを設定した。

３．　開催日時・場所

令和５年８月１８日（金）14：00～16：10　八戸市美術館１階スタジオ

４．　参加者数

２９人（オンライン参加　５名含む）

５．　開催プログラム

〇イントロダクション：「文化芸術基本法の概要」「24 条の改正の概要や経緯」の説明
　　コーディネーター　太下　義之氏

〇事例発表：テーマ「学校教育における文化芸術の鑑賞や活動の充実について考える」

パネリスト：八戸ポータルミュージアム　コーディネーター　櫛部　晃代氏
　　パフォーミングアーツ事業でのアウトリーチについて

パネリスト：インフィニートコラルコ弦楽合奏団代表　高橋　めぐみ氏
　　インフィニートコラルコ弦楽合奏団の活動について

パネリスト：八戸市公民館　館長　柾谷　伸夫氏
　　神楽、南部弁の伝承を通した学校教育へのアプローチについて

パネリスト：八戸市美術館学校連携プロジェクトチームアドバイザー　三澤　一実氏
　　朝の芸術鑑賞が及ぼすあらゆる影響について

〇トークセッション：参加者に質問を記載してもらい、その質問に対して回答する方式で実施。（４つの質問に回答）

６．　内　容

・学校教育の現場において行われているさまざまな取組を知る機会がなかったので、実際に活動している方々の生の声を聞いたことで、新たに体験を提供する学校が出てきたり、活動者においても活動の幅が広がる機会になったと感じた。

・パフォーミングアーツのアウトリーチは、異なる学校同士の交流促進や、プロパフォーマーとの触れ合いによる非日常の体験、ダンスへの苦手意識や羞恥心をプラス方向への転換など、普段の授業とは異なる学びの提供となる。

・芸術に触れる機会は全員に平等であると考える。子ども達への提供はもちろんのこと、保護者も一緒に体験してほしい。

・文化芸術に触れる機会が子どもたちだけではなく、先生側の考え方にも影響を与える。先生たちが文化芸術に触れ、感動した体験を子どもたちにも体験してほしいと思うことが、学校現場における活動のきっかけとなる。

・文化芸術に触れることで、学校の成績が上がったり、不登校の生徒が登校できるようになったりと、一見、繋がりが無いようなことにもプラスの影響がある。これは芸術活動を行なうことで、想像力が身についたり、色々な見方、感想がある芸術分野において自己肯定感が向上したと考えられる。